

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795400078		
法人名	株式会社 ケアサービス 豊見		
事業所名	グループホーム チャ〜がんじゅう		
所在地	沖縄県豊見城字与根 217-2		
自己評価作成日	令和5年 1月 28日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4795400078-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和5年 3月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人や車の通りが少ない閑静な場所に当施設はありますが、部落になってる為、外出時や敷地内の畑の手入れ、散歩などを利用者様と楽しみながらおこなっており、それを見て近所さんも声をかけてくれたりと温かなふれあいを大切にしています。利用者様の状態を確認しながら、おやつ作りをしたり、イベント事を多く取り入れたりと積極的におこない、毎日充実した笑いの絶えない家庭的で安心した暮らしが提供できるよう努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地の奥まった場所にあり、玄関前には手入れされた植栽、広々とした共用空間には大きな窓があり、明るく、風通しも良く、庭や畑、駐車場の様子が良く見える。利用者はテーブル席やテレビ前のソファに座り、思い思いに過ごしている。玄関にはベンチと足台を設置する等、安全面にも配慮し、利用者の好きな花も飾られている。管理者は、職員の推薦により令和5年1月から管理職に就いており、職員間の信頼も厚くチームワークの良さが感じられる。調理専属の職員を配置して3食調理し、利用者の希望も行事食やおやつ作り等で反映させている。感染対策のため、職員は利用者と一緒に食事は摂っていないが、同じ食事を摂り、味付けや食べやすさ等を把握している。庭や周辺の散歩、日光浴等の他、感染状況を見て、全員で花見ドライブを実施している。家族が病院受診後に、一緒に買い物や食事に出かけたり、重度の利用者にも、リフト車を借りて外出できるようにする等の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の朝礼で職員と唱和しています。	開設時に作られた理念を事業所の玄関等に掲示し、毎朝職員が唱和していると、利用者もうんうんと頷きながら聞いている。地域の人達との関わり、みんなで見守り助け合う、何かあったときは声かけする等が込められた理念は覚えやすく、唱和することで職員間に浸透しており、管理者は見直しは考えていない。新任職員にはオリエンテーション時に説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過の為、直接会話は無いが、ガラス越しや遠目で笑顔にあいさつ等があります。	地域の民生委員が運営推進会議委員として関わっている。コロナ禍以前は、事業所庭でのバーベキューに周辺住民も参加して交流していたが、現在は中断している。事業所周辺の散歩時に、利用者と職員は地域住民と言葉を交わし、利用者も隣人の名前を覚え、隣家からは野菜の差し入れもある。制限解除後は、イベントを増やしたいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設の敷地内にある畑の手入れや散歩中に声を掛けられる事がある、地域の中で暮らしてるからこそ繋がりが保たれていると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの流行も継続していましたが、互いに間隔を取り、マスク、手指消毒、検温を行い開催した。(検討内容等は添付している資料を参照)。	運営推進会議は、利用者、家族、行政、地域代表、知見者(他事業所の介護支援専門員)が委員を務め、コロナ禍により利用者、家族、知見者で2か月に1回開催し、他委員には議事録を配布している。活動や職員研修、事故・ヒヤリハット、災害対策等について報告し、委員からは電話等で質問や意見、助言を得ている。会議録は玄関に設置して、自由に閲覧できるが、議事録からは外部評価結果の報告は確認できない。	昨年は運営推進会議への取り組みができず、ステップとなっていたが、開催回数をクリアして、5月からは対面開催も予定されており、外部評価についても報告が求められる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の担当者から利用者の紹介や見学、施設の受け入れ状態や施設の空き状況の確認など受ける事がある、その際に状況説明し、連携を行っています。	市担当窓口とは運営推進会議の報告の他、ワクチン接種の実施方法について、メールで相談している。また、家族が困っていることや、重度の利用者の医療的課題、区分変更等、制度上の件で情報交換をしている。研修案内はメールで受けている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギをかけず、利用者を見守る体制を整えています。	身体拘束適正化指針やマニュアルを整備し、適正化委員会は令和4年10月から開始し、これまで2回開催している。会議の結果は、翌日の申し送りで職員へ報告して周知を図り、他委員には文書で報告している。研修や各自のケアの振り返り等を通して、不適切なケアについても理解を深めている。玄関の施錠やセンサーを使用せず、居室は内側から施錠ができる。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回以上の開催が義務付けられているので、4月以降の定期的な開催が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会で自身の行動・言動に注意して対応できているのか、各自振り返り職員同士で確認・共有をしています。	虐待防止の指針やマニュアルを整備し、委員会を設置して、受付担当者は管理者、第三者委員を明示している。新任職員のオリエンテーション時も含め、定期的に研修を実施し、スピーチロック(言葉遣いや、急がせたり、強い口調)等も意識付けしている。職員のストレス軽減のため、個別面談や、特定の人だけにケアが偏らないように管理者は配慮している。新採用試用期間中の職員は、言葉遣いや態度を注視している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する認識が足りず、積極的に研修の学習をする機会が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学等も行ってもらい、契約内容・重要事項説明書も分かりやすく口頭で説明し、利用者さんやご家族が納得した上で契約書を交わしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し出方法等も説明しており、ご家族の来所時・電話等にて意見を聞いて可能な限り要望に近づけていくように対応しています。	運営推進会議や病院受診の際に、意見を聞いている。コロナ禍での面会を当初はオンラインで実施していたが、利用者も家族も解りづらいとの声があり、窓越しに電話で話せるように変更している。家族宛に送った利用者本人の写真入り年賀状も、家族に喜ばれた。今後は、LINEやインスタグラムの利用も考えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティング時に要望や意見を共有し反映させています。	毎日の朝礼やミーティング時に意見等を聞き、毎月の経営改善会議に管理者が参加して意見を報告している。職員からの「インターネットが利用しづらい」、「コピー機の場所を移動して欲しい」等の意見に対応して、職員の負担軽減に繋げている。また、水道光熱費削減のため、シャワーヘッドも交換している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へ労働時間や勤務形態の相談等を報告し、能力・努力に応じた報酬が得られるよう取り組んでいます。	就業規則で給与や年休取得を明示し、昨年ステップだった夜勤者の健康診断は2回、個別に受診できるようになっている。今後は事業所で予約できるようにし、より受診しやすくする予定である。職員の食費は全額事業所で負担し、資格取得支援も、受講料の全額負担や勤務調整をする等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。ハラスメント防止や対応策に関しては未だ取り組んでいない。	ハラスメント対策は令和4年4月より義務化されているので、ハラスメント防止の方針や定義、種類を明確にし、対策の指針や体制、マニュアルの整備、研修の実施等、早急な対応が求められる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス過の継続もあり、研修派遣が難しい為、施設内でできる取り組みに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会が開催する研修への派遣・施設見学に行けるよう努める。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議に本人、ご家族さんの意向や要望を伺い日頃の会話や行動から、不安にさせないよう寄り添っています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さんから得られた情報を共有・検討しご要望に出来るだけ近づけていけるよう努め信頼関係を築く努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の、事前の実地調査で本人の状態把握に努め、本人・ご家族さんが必要としている支援は何か傾聴し、出来る限りの支援の手助けをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活を送れるようコミュニケーションを図りながら関係作りが行えるよう取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活・身体状態(ADL)等の報告を積極的に行い、ご家族さんの意向確認・情報共有をして本人さんを支えていく関係作りに努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス継続中の為、面会は窓越しに可能とし、電話等を使用し、会話をしています。電話等の使用が難しい方の場合、職員が側について会話を取り持ったりと対応をしています。	家族が、利用者本人の友人を連れて会いに来た際、友人の名前は忘れていたが、懐かしんでいる姿があった。米軍基地に勤めていた利用者が、自己紹介時には英語で話すので、感染状況が落ち着いたら、英会話教室を開きたいと職員は考えている。隣家の住民とも、名前を覚えている等、馴染みの関係ができています。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や外出支援を通し、互いを理解し合える家庭的な雰囲気を作れるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談等があれば傾聴・助言を行う事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、普段の日常会話から本人の意向を把握するよう努めており個々の思いを職員間で情報共有し実践に繋げる。	利用者からは日頃の会話の中で思いや意向を聞き、家族からの情報でも把握している。畑に行きたい、畑をやりたいとの意向で、職員と一緒に事業所敷地内で畑の手入れをしている。日頃意思表示の難しい方には、声をかけ、その時の表情や姿勢、首を振る等の反応を観察して、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さんや介護支援専門員からの情報収集を通してケアプラン・アセスメント等を職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル等の健康チェックで体調の確認を行い、職員間で情報共有しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当者会議の場で本人・ご家族、計画作成担当者・管理者が参加し主治医の助言を反映し作成しています。	介護計画は長期目標は認定有効期間、短期目標は認定有効期間の半分を目途に設定し、全職員で話し合って作成し、半年に1回モニタリングを実施している。状態の変化時等は随時見直しをしている。担当者会議は、利用者本人、家族が同席し、主治医の助言も反映させ、関係者で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を職員間で情報を共有しながら、改善・見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護とも連携を図りながら、本人さんの状況に応じて訪問診療・訪問マッサージを取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方から苗等頂き、敷地内の畑に植えて成長確認し、収穫等行っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族さんに対応して貰っており、施設内での本人さんの状況は担当職員がDrへお手紙を書き対応行っています。状態が安定している方・ご家族さんの希望があれば訪問診療へ必要に応じて繋げていくよう努めています。	かかりつけ医の受診や健康診断は家族対応とし、必要時には事業所の車を貸し出すなど支援している。利用者の体力的な問題等で受診が厳しい場合は、複数の訪問診療の中から選択してもらい、現在は2名が利用している。家族対応時は医療情報書を渡し、結果は家族から口頭で受け、訪問診療時は職員が対応し、結果は家族に電話で報告している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションへ職員から身体状況の報告を説明し緊急時対応の体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	症状が悪化しないよう早期の段階で健康状態の相談をしている。入院中、基本情報・アセスメント等の情報提供を行う。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の内容をご家族さんへ説明・同意を頂いています。	看取り指針を整備し、事業所での対応範囲については入居時に説明する他、医療的対応が必要になる等状態変化時には、改めて協議することとしているが、これまで看取りは行っていない。今後は系列事業所の取り組みを参考に、研修や見学等を行い、職員の知識の向上や不安軽減へ取り組みたいとしている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通して緊急時の対処法を学び緊急連絡先を搬送先へ情報をお伝えする。	急変や事故発生時対応マニュアルを整備し、利用者毎の緊急連絡シートで連絡体制等も確認している。急変時対応や誤薬についての勉強会は開催しているが、事故やヒヤリハット報告書の記録が数年前から中断しており、事故の要因分析や未然・再発防止策検討の協議や周知に関する過程が確認できなかった。	介護事故防止や再発防止に向けて、日常における危険を察知するヒヤリハットと、実際の事故発生時の正しい要因分析と対応策の検討、職員間での共有が望まれる。
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	消防避難訓練の実施・災害時への備えを職員間で共有し、互いに声掛けや、確認などを怠らないようお伝えしている。	半年に1回業者による消防設備点検を実施しているが、地震・津波以外の防災マニュアルは確認できず、夜間想定避難訓練はコロナ蔓延により中止したままで、日中想定訓練を1回実施している。発電機やカセットコンロ、懐中電灯は備蓄しているが、保管場所の都合で水や食料等は利用者用の3日分程度を備蓄しているが、リストが作成されていない。感染症マニュアルは整備され、研修も実施している。	想定される各種災害への防災マニュアルの整備と、夜間想定避難訓練の実施とともに、保管場所を確保し、職員分を含めた備蓄品の整備とリストの作成が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんへの言葉がけに配慮し自尊心を傷つけず、排泄時は特に意識し配慮を行っています。	利用者は名前で呼び、丁寧な言葉づかいを意識している。トイレや浴室のドアは閉め、居室入室時はノックと声掛けをするなど、プライバシーに配慮し、排泄の失敗時も周囲に分からないように対応するなど、尊厳の保持に努めている。個人情報保護方針・利用目的は揭示し、守秘義務についても雇用契約時に誓約書を取り、研修も実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人さんの混乱が見られたり、自己決定が出来ない場面で助言等を行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、本人が持つ個性を大切に楽しんで頂けるよう関わっています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・整容で身だしなみを整え、自身で衣服を選んで貰っています。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をしている職員の様子を観察したり、野菜を洗ったり、もやしの髭抜き、使用済みのエプロンを軽く洗って頂く。	調理専属の職員を配置し、事業所内で3食調理し、利用者も野菜の下ごしらえ等行っている。感染対策のため、職員は利用者と一緒に食事は摂っていないが、同じ食事を摂り、味付けや食べやすさ等は把握している。系列施設の栄養士作成の献立を参考にしているが、利用者の希望も行事食やおやつ作り等で反映させている。食事中は音楽をかけ、利用者との会話を楽しみながら食事ができるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を記録し、職員間で摂取量の把握をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアは欠かさず行い、本人では対応が難しい場合は職員が対応しています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間帯を把握し、失敗を減らす努力をして本人さんが気持ちよく出来るようにしている。	入居前の排泄の情報と、入居後の排泄チェック表で声かけのタイミング等を把握し、おむつ使用の方も日中は、全員がトイレで排泄できるよう支援している。夜間もトイレ使用する方には職員が付き添い、安全にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際は、出来るだけ多品目(野菜)を多く取り入れたり、一日の目標水分量を取り入れています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否があった場合は、時間を置き再度声掛け・もしくは職員の変更をするなどして対応している。	浴室内は滑りにくいタイルやシャワーチェア、必要に応じて職員2人対応等、安全面に配慮している。入浴は週3回実施し、好きな音楽をかけたり、泡立てネットや好みのシャンプー等を使用するなど、楽しめるよう工夫している。拒否する利用者には、その状況を観察し、声のトーンに気をつけたり、作業中には声をかけず、終わった時に声をかける、歩き出したタイミングで声をかける等の対応で、スムーズに案内できている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	これまでの生活習慣を把握し、安 心して気持ちよく休んで頂ける ようベッド上を常に綺麗に整え るなどしている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	状態変化、内服薬の変更・追加 等があれば申し送りノートを活 用し朝礼で情報共有をしています。	服薬マニュアルを整備し、薬剤 師が来所してセットし、与薬時 は声出し確認と職員2人のダブル チェックをしている。服薬内容 は個別の薬ファイルで確認し、 変更の際は薬剤師から説明を受 け、申し送りで周知している。訪 問看護師にも利用者の状態と薬 の影響について相談し、定期受 診時の医療情報書に看護師の意 見として記載し、減薬や変更の 必要性等について医師と相談し ている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	職員と話し合いながら計画を作 り、本人・ご家族さんから望んだ 生活を聞き出し計画を作成して います。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している	天気がいい日には敷地内にある 畑の観察や、日光浴・散歩の時 間を出来るだけ作り、ドライブ にも出かけられる取り組みをし ています。	普段は庭や周辺の散歩や日光浴 等を行い、新型コロナの感染状 況を見て、全員で花見ドライブ を実施し、ドライブした日の夜 はぐっすり眠る等の反応が見 られている。家族が病院受診後 に、一緒に買い物や食事に出か けたり、重度の利用者にも、リ フト車を借りて外出できる等の 支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	以前は本人さんがお金の管理を する事もあったようですが、現 在はしていません。(紛失したり、 隠したりする事も多々あり、ト ラブルの原因になる為)。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 18日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんからの希望があればご家族さんへ連絡をしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ飾りつけを利用者・職員で作成し取付しています。	玄関前は手入れされた植栽があり、広々とした共用空間には大きな窓があり、明るく、風通しも良く、庭や畑、駐車場の様子が良く見える。利用者はテーブル席やテレビ前のソファに座り、思い思いに過ごしている。玄関にはベンチと足台を設置する等、安全面にも配慮し、利用者の好きな花も飾られている。重要事項説明書は玄関に掲示し、運営推進会議録や外部評価結果ファイルは玄関横に設置し、自由に閲覧できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や外へベンチを設置し落ち着いた過ごせる場所(空間)を提供しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人さんの居室にご家族さんとの写真を飾り、繋がりが保てるよう工夫し対応しています。	居室にはベッドとエアコン、コールボタンが設置され、中から施錠もできる。利用者は寝具やタンス、机、いす、テレビ、ラジオ、カレンダー、写真等を持ち込んでいる。職員と一緒に掃除をする利用者もいて、衣替えの時期には家族と相談しながら、衣類の交換をし、居室の整理整頓にも努めている。紙おむつ類は居室の籠に入れてカバーを掛け、人目につかないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんとの関わりの中で身に付いている力を引き出せるようコミュニケーションを図りながら支援しています。		